



ノアの爽かぜ風



誕生日会&獅子舞

患者さんの無病息災を願って今年も獅子舞の登場です。



誕生日の皆さんにガブリ(・▽・)

他の皆さんにもガブリ(・▽・)



皆さん喜んでいらっしかったです(*'▽')

～目次～

- 病院短信『腰部脊柱管狭窄症になって』
- 看護日誌
- 介護だより
- 日常の一コマ
- 『ナナ鬼退治』

主演 ナナ

2月の予定

◆誕生日会&節分

1病棟:	7日(金)	14:15~	各病棟にて
2病棟:	6日(木)	14:00~	
3病棟:	5日(水)	14:00~	



ナナ鬼退治

(´ー´)ノ

1 鬼がきた～(´ー´)ノ

2 どうしょう先生(ノωノ)

は～い(ωノ)

番外編

修復完了、鬼と記念撮影パシャ😊

ナナちゃん、派手にやったわね(´▽´)

やりすぎでしょう(´▽´)

3 おりゃ～(´ー´)ノ

4 ごめんなさい(´▽´)

ナナは正義感が強いです♥
でもついやり過ぎてしまいます
気持ちい～っ(*´ω`*)
気持ちい～んか～い(´▽´)

病院短信

病棟担当医師

『腰部脊柱管狭窄症になって』

腰痛は老若男女問わず発症する一般的症状で、各種の腰痛を治療してきましたが、自分の腰痛は初体験でした。

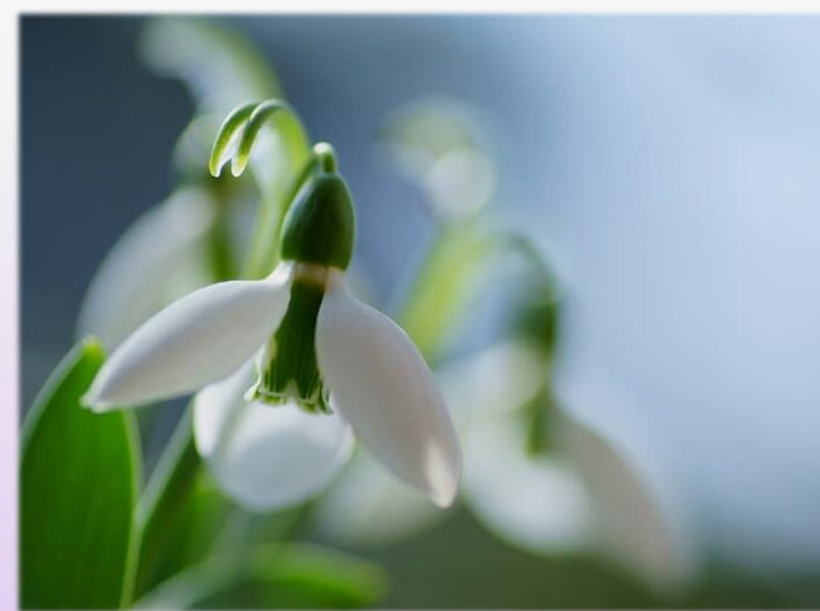
今回、ある日突然右の腰痛と右臀部から右下肢痛と痺れが発症して、大変辛かったです。腰椎X線検査で一部の椎間板が著明に狭小化しており、ほとんど消失状態なので愕然として小さな胸を痛め、落ち込みました。椎間板は、一般的に再生しないといわれており、進行すれば手術が必要とされています。

過去の症例の治療経験を紐解き、治療法を組み立てて、直ちにプロジェクトXを開始しました。主な治療法は、現代標準医療（神経ブロック・現代医薬）・東洋医学（経穴経絡治療・漢方薬）・物理療法（牽引・電氣的）・運動療法などを組み合わせながら施行しました。効果は徐々に現れて、2か月後には腰痛が約30%程度になったので、X線検査施行。狭小化していた椎間板は80%程に回復し、見事に再生していたのです。治療プログラムが間違っていたことを確認出来て、感激しました。もう一人不思議に思いながらX線技師さんが喜んでくれて、このような症例は経験が無いと驚かれました。他にも腰痛でコルセットを付けて仕事を頑張っている病棟スタッフさんにも驚かれ、治療法を

問われたので、自助努力できる範囲で指導しました。

その後もリバウンドと再発の心配をしながら治療を継続。発症から3か月頃には、腰痛はほぼ消失。4か月目のX線検査では、多少のリバウンドはありますが、再生された椎間板はしっかりと残っていたので安心しました。自己修復能力を高めながら、今後もアンチエイジング対策をして、治療を継続しなければならぬと痛感しました。

個人差もありますが、老化現象でも諦めないで、チャレンジ精神を持って再生の可能性を期待したいものです。



日常のーコマ

今月は3病棟の米作さん（88歳）です。米作さんは新潟県出身で7人兄弟の末っ子として生まれました。「農家だから米作と名前を付けてもらった」と米作さんはおっしゃっていました。大学卒業後税理士となり、29歳でご結婚され、2人のお子さんがいます。真面目で仕事一筋で、仕事が一段落した後は家族旅行を楽しんでおられました。息子さんからは「優しい真面目な父で、野球と将棋を教えてもらった」と語ってくれました。また、米作さんは中学生の時、新潟で一番将棋が強かったそうです。税理士を77歳まで勤められた後、平成28年頃より物忘れ・易怒性・暴言が見られるようになり、軽度認知症と診断されました。令和2年頃よりデイサービスなども利用するようになり、令和5年に施設に入所されましたが、認知症状は進行し徘徊や介護拒否も現れ、同年6月に当院に入院されました。



入院後は廊下を行ったり来たり歩き回っていましたが、当院は身体拘束を一切行わないため、比較的、自由に過ごしていただきました。すると、暴言や介護拒否といった易怒的な面はなくなり穏やかになられ、笑顔もみられるようになりました。また、食べる事が大好きで、お米を大切にされており最後の一粒一粒まで箸でつまんできれいに召し上がります。作業療法活動では体操・音楽鑑賞・お茶会などにも積極的に参加され、笑顔で他の患者さんと共に楽しんでおられます。これからも米作さんの笑顔を絶やさぬよう見守っていきたいと思います。



看護日誌

節分は旧暦の立春が新年であったため、その前日（2月1日）に邪気を払う目的で始まったものが由来とされており、現在の大晦日のような日であったといわれています。そのため年の変わり目に邪気を払い、1年の無病息災を願う行事として豆まきを行ったり、恵方巻やイワシを食べる風習が今も残っているのです。季節の分け目は悪いもの（邪気）が現れやすいとされていて、その悪いものの象徴が「鬼」だそうです。

病棟にも今年も鬼がやってきます。みなさん鬼をやっつけて邪気を払い一年無病息災で過ごせることを心より願っています。



介護だより

新年を迎え早くも1か月が過ぎました。昨年末あたりから再び全国で新型コロナやインフルエンザの感染者が増えました。当院でも全病棟で新型コロナやインフルエンザの患者さんが増えましたが、スタッフ一丸となりケアを行って収束しました。患者さんの健康管理はもちろんですが、自分の健康管理にも気を付け、今年も元気に楽しく患者さんと過ごしていきたいと思っています。

